

まちを育ててる アートの可能性

1月15日、東温アートヴィレッジセンター・シアターNESTで、令和元年度地域おこし協力隊活動報告会を開催しました。平成29、30年度に委嘱された5人は、市が推進するアートヴィレッジとうおん構想の中心的役割を担っています。

独自性を活かした全国に誇れるまちづくり

の3つが取り組みの主な柱です。

アートヴィレッジとうおん構想は、アート関連人材の受け入れ促進と、芸術に気軽に触れることができる環境づくりを進め、多様性と創造性にあふれた、全国に誇れるまちづくりを目指すもの。舞台芸術に関わる仕事と学びの場を創り出し、全国からのアーティストを誘致とそこから生まれる新たな文化芸術の発信、さらに俳優人材の育成や舞台芸術の流通

隊員は全国で活動するアーティストを東温市に招き、平成30年4月に開館した東温アートヴィレッジセンターや中山間部の地域運営組織が運営する活性化拠点施設などでのイベント開催を中心に、活動内容を説明しました。

地域との協働制作

音楽家としての顔を持つ向井健(45)は、「構想のスタートに携わり、アートという

広い概念の中で自身に求められていることの整理に苦慮した。2年目に活動の範囲を広げ、地域とのコラボレーション企画を多く立ち上げた」と説明。東温市の豊かな自然や地理的優位性はアーティストの創作活動にとって望ましい環境だとし、退任後はアーティストインレジデンスの受け皿としてレーベルの設立を目指したいと定住に向けて具体的な話しました。アートは新たな視点を与えてくれるもの

続けて「イベント企画では運営者、参加者との関係構築を大切に、ネットワークづくりに取り組んだ。アートは心を豊かにし、私たちに

のではないかと課題を示しました。

協力隊活動に感謝の声

奥松瀬川地区の交流拠点で音楽演奏会を継続開催する片山さんは「企画運営で多く相談し、アドバイスをもらった。何もなかった地域にアートの風を起してくれた隊員の皆さんに感謝したい」と3年間の活動を労いました。

奥松瀬川地区の交流拠点で音楽演奏会を継続開催する片山さんは「企画運営で多く相談し、アドバイスをもらった。何もなかった地域にアートの風を起してくれた隊員の皆さんに感謝したい」と3年間の活動を労いました。

報告では、これまでの人脈を使い、医療福祉などの現場とアートの融合について可能性を強調しました。

向井隊員は、地理的優位性はあるものの、都市的な考え方からの脱却を示し、「人口が減少する中で、人の関係性をいかに濃くするかが大事になる。アートを使ったまちづくりが他地域でも展開される中、今ある東温市の固有資源を磨き、伸ばし、届けていく方法を追求する必要がある。違いがあれば、他地域との連携も図りやすくなる

参加した高校生は「東温市の地域活性化に以前から興味があった。若者にウケるイベントも多く、認知獲得には若者が使うツールを活用した継続発信が必要」と感想を述べました。

趣味や価値観が多様化する中、構想の浸透には当然時間と労力がかかりました。平成29年からわずか3年で多くのイベントを企画し、地域住民と連携して新しい取り組みを行ったことで、少しずつですが着実に変化しているのではないだろうか。雇用を生み出す経済的側面や文化・教育的側面もアートの可能性は広がります。アートヴィレッジとうおん構想は

教育現場へアートを

コミュニケーションスクールに取り組み市内の小中学校では、構想に早くから着目し、地元で活動する美術家を地域人材として招く動きが開始

めていきます。関係者は「教員では教えきれない着眼点や考え方を子どもたちに伝えることができ、地方でも質の高い教育を受けられる環境づくりが地方創生につながるのでは。教育の現場にもアートヴィレッジとうおん構想を取り入れたい」と将来を見据えました。

これからの展開に期待

3年間、ありがとうございました。

忠のさん、高山さん、向井さんが退任します。

高山力造(たかやまりきぞう) 隊員
東温市で自分のスキルを活かせる演劇関連の仕事はまだ少なそうなので、中四国及び西日本地域に視野を広げて活動の場を探しています。

忠の仁(ただのじん) 隊員
続けて東温市で舞台芸術の普及に努め、ガラコンサートなどミュージカルの発展を、坊っちゃん劇場と手を携えながら進めていきます。

向井健(むかいたけし) 隊員
音楽活動の拠点として東温市で引き続き活動していく予定です。アートヴィレッジとうおん構想を内外からサポートします。定住に向けた住宅なども探しています。



令和元年度
東温市地域おこし協力隊活動報告会
Art Village TOON
令和2年1月15日(水) 19時から
東温アートヴィレッジセンター シアターNEST

高橋克司(たかはしかつじ) 隊員
現在2期目。アーティストの音響・照明など技術担当のみならず企画・制作も担う。

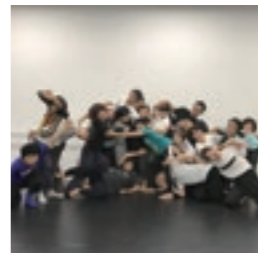
三瀬賢太(みせけんた) 隊員
現在2期目。マジシャンや劇団運営者の顔を持つ。県内各地を回り、東温市の認知・関心を高めている。



▲砂絵と影絵で踊ってみよう



▲今井純インプロワークショップ



▲コンタクト・インプロヴィゼーションWS



▲親子で楽しむ「夜の芸術祭」



▲インド音楽の世界



▲ミュージカルガラコンサート「SHALL WE SING?」



▲音の万華鏡



▲東温キッズミュージカル「明日を信じて」



▲人形の恋物語

地域おこし協力隊制度とは?

人口減少や高齢化等が進行する地方で、都市部に居住する意欲的な人材を受け入れ、地域の課題解決と、その定住・定着を図る取り組み。地域力の維持・強化を目指し、東温市では平成28年度から中山間地域での住民主体の取り組み支援とアートヴィレッジとうおん構想の企画・運営支援を中心に受け入れを行っている。任期は最長3年間。現在9人が活動中。